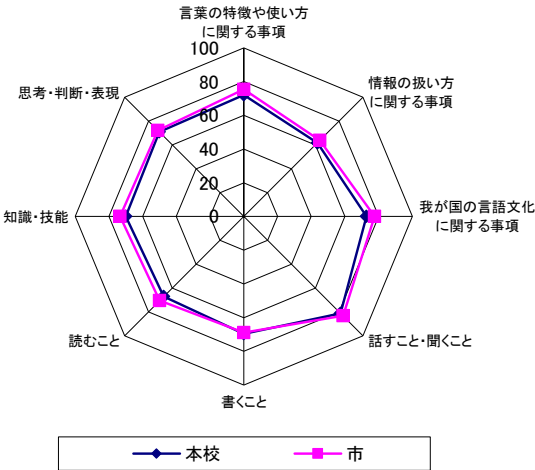


宇都宮市立清原中学校 第3学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	72.1	75.4	68.3
	情報の扱い方に関する事項	61.7	63.9	58.0
	我が国の言語文化に関する事項	72.8	77.6	69.1
	話すこと・聞くこと	81.2	83.2	81.6
	書くこと	69.6	68.9	58.6
	読むこと	67.2	70.5	65.7
観点別	知識・技能	70.0	73.4	66.2
	思考・判断・表現	70.9	72.2	65.6

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

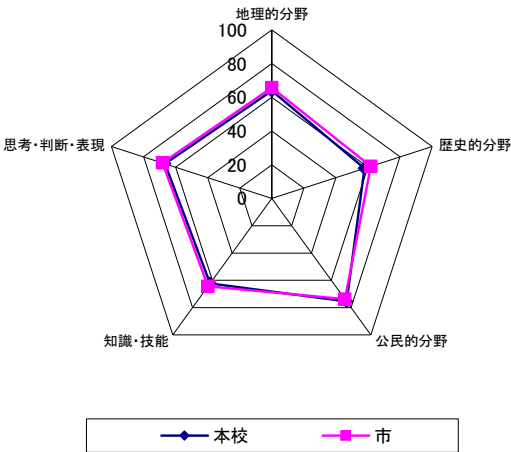
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	○8問中6問で全国の平均を上回った。漢字の読み書きでは、1問だけ市の平均を上回った。 ●8問中7問で市の平均を下回った。特に「用言の活用」についての問題では、市の平均を9ポイント下回った。	○言葉についての学習は、経験の積み重ねが必要となる領域である。「漢字の読み書き」「文法的事項」の学習を、読解教材や表現活動などでも、様々な学習機会を設け、知識の定着を図っていく。
情報の扱い方に関する事項	○3問すべて全国平均を上回った。「情報と情報との関係について理解し、文章全体を整える」記述式問題では、市の平均を0.1ポイント下回ったものの、全国平均を5.9ポイント上回った。 ●3問とも市の平均を下回った。	・「読み取った情報を正しく理解し、文章にする」学習を多く取り入れ、生徒同士が相互評価する機会を設け、情報活用スキルを高めていく。
我が国の言語文化に関する事項	○3問すべて全国平均を上回った。「現代語訳を手掛かりに古典を読む」問題では、市の平均を上回った。 ●「歴史的仮名遣い」を問う問題では、市の平均を11.8ポイント下回った。	・「歴史的仮名遣い」は1年次よりの積み重ねが大切になってくる。古典の学習の際に「基本事項」の復習を必ず行うようにし、「歴史的仮名遣い」や「古語」について定着を図っていく。
話すこと・聞くこと	○「話の展開を予想しながら聞く」問題では、96ポイントと高い正答率を示し、3問中2問では全国平均を上回った。 ●国語における6つの領域では、この領域のみ全国の平均を下回った。	・自分の考えをもち、文章にすることはできるようになってきている。それを、「話すこと」、音声言語として分かりやすく伝えることにつながる学習機会を増やしていく。
書くこと	○7問すべて全国平均を上回った。中でも記述式の問題では5問中4問で市の平均を上回った。無回答の生徒も市の平均よりも少なかった。 ●「情報」と重なるところのある「チラシを書く」問題の「文章全体を整える」項目では、3問とも市の平均を下回った。	・授業において「文章で表現する」学習を数多く行っており、書くことに対する抵抗は少なくなっている。意欲的に自分の考えを表現できるようになり、力もついてきているので、今後は「情報を的確に伝える学習」の機会を増やしていく。
読むこと	○説明的な文章の読解では、3問とも全国平均を上回った。「論理の展開の仕方を捉える」問題では、市の平均を上回った。 ●文学的な文章の読解では、3問とも全国、市の平均を下回った。	・授業中に行っている読解についての学習ができていても、それが「テストの問題を解く」スキルにつながっていないと思われる。問題を解く形式のワークシートを増やし、細かい部分の読み取りにつなげていく。

宇都宮市立清原中学校 第3学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	地理的分野	63.9	65.7	56.7
	歴史的分野	57.8	61.7	54.8
	公民的分野	75.5	73.8	73.3
観点別	知識・技能	62.2	64.5	59.5
	思考・判断・表現	66.6	68.2	55.6

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。
(社会では本市独自の設問が含まれるため、参考値は全設問に対応した値ではない。)



★指導の工夫と改善

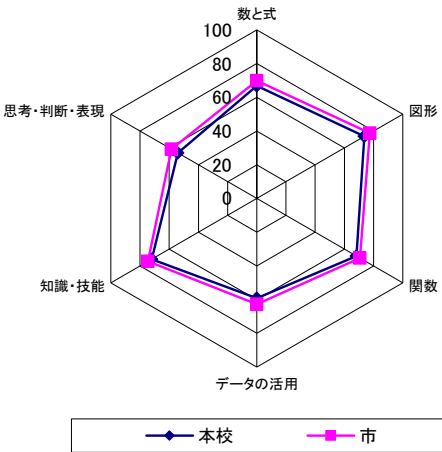
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
地理的分野	地理的分野全体の平均正答率は、全国の平均正答率より7.2%上回った。 ○日本の地域的特色についての問題では、3問中2問が市正答率を上回った。 ●日本の諸地域についての問題では、多くの問題で全国正答率は上回ったが、市正答率は下回った。特に九州地方の農業や、中国・四国、近畿地方の工業の特色についての正答率が低い。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・複数の資料の読み取り問題の正答率が低いため、意識的に資料を読み取らせる活動を多く取り入れたい。また、話し合い活動を積極的に取り入れ、多くの視点から資料読み取りができるようにしていきたい。 ・日本の諸地域については、写真資料や映像資料などを多く用い、各地域の特徴を掴ませたい。
歴史的分野	歴史的分野全体の平均正答率は、前年度の校内平均より1.9%高く、全国の平均正答率より3%上回った。 ○古代までの日本についての問題では、6問中5問で全国正答率を上回った。 ●近世の日本についての問題は、江戸幕府の政治や対外関係、打ちこわしについての問題の正答率が低い。	・江戸時代の幕藩体制についての資料の読み取りや、主な出来事を関連付けて時代の流れを読み取れるようにしたい。 ・年代の表し方について正答率が低かったので、歴史の学習の始まりを丁寧に指導するようにすることと、年表を活用して年代を意識させたい。
公民的分野	公民的分野の平均正答率は、三分野の中で最も高く、市の平均正答率より1.7%上回った。 ○私たちの生活と現代社会、人間の尊重と日本国憲法についての問題では、6問すべて市正答率を上回った。 ●憲法改正の手続きについての問題では、市正答率は上回っているが正答率は低い。	・公民的分野については、興味をもって学習に取り組んでいる生徒が多くいる。今後も時事的な問題や身近な問題、世界規模の問題への課題や取り組みなど、調べ学習や話し合い活動を通して強く意識させたい。 ・政治や経済など、複雑な仕組みのあるものについては、丁寧に図示したり、調べさせたりして理解を深めさせたい。

宇都宮市立清原中学校 第3学年【数学】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と式	66.8	69.9	66.4
	図形	73.7	77.4	68.1
	関数	68.3	70.6	60.8
	データの活用	59.2	62.7	54.2
観点別	知識・技能	72.0	74.6	70.3
	思考・判断・表現	54.1	58.4	43.3

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

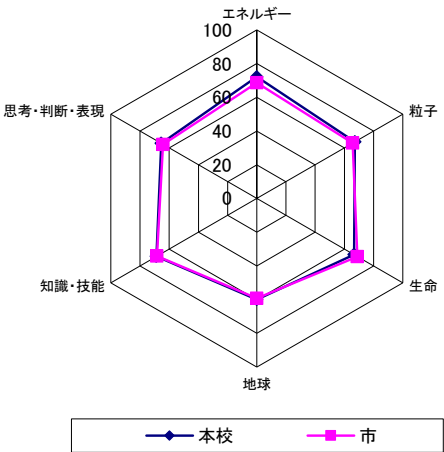
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	○式の計算の問題では、市の正答率は下回っているが、全国の正答率よりは高い。1年次の計算問題であれば8.9割の生徒は解くことができています。 ●乗法公式の計算、根号をふくむ式の計算、連立方程式の問題では、市の正答率を下回っている。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・基本的な計算方法は身に付いてはきている。しかしながら、複雑な式の計算は曖昧になっている点が見受けられる。そのため、教科書やワークだけでなく、必要に応じて自作プリントを利用する。定期的に学習することも必要とされるので、AIDリルを利用して復習させる。
図形	○空間図形や平行移動の問題は、全国の正答率を上回っている。 ○面積を求める問題については、市の正答率を下回っているが、全国正答率を上回っている。 ●作図の問題は正答率が6割ほどであり、正答率は市や全国を下回っている。	・作図の方法だけでなく、その作図のもつ意味を考えさせる。また、作図は中学1年の学習内容のため、重点的に作図の課題に取り組める演習の時間をつくる。また、AIDリルを利用して復習させる。
関数	○1次関数の問題では、市の正答率と全国の正答率を上回っている問題がある。 ●xの2乗に比例する関数の問題や、関数の複雑な問題では、正答率が下がり、市の正答率と全国の正答率を下回っている。	・関数は苦手意識をもつ生徒が多い。関数とグラフについて、日常生活や社会において興味・関心をもちそうな事象を教材化して学習に取り組むことにより、数学がより身近なもの・役立つものとの「有用性やよさ」を感得させ、関数を学習することへの意欲を高める。
データの活用	○確率を求める問題は7.8が解けており、全国の正答率を上回っている。 ●箱ひげ図、ヒストグラムから値を読み取るなど、データ分布の傾向については、校内の正答率が5割ほどであり、市の正答率を下回っている。	・確率の問題は多くの生徒が解くことができています。しかしながら、1年次に学習したヒストグラムや2年次の箱ひげ図の問題については苦手であると思われる。読み取りやグラフ・図の作成は、内容を理解していないと解くことができないため、今一度1つ1つ確認しながら取り組む必要がある。文章読解力や思考力の向上を、反復練習を通して力をつけさせたい。

宇都宮市立清原中学校 第3学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	エネルギー	72.2	68.7	63.6
	粒子	67.2	65.7	64.2
	生命	66.7	68.9	64.4
	地球	60.0	59.2	54.3
観点別	知識・技能	68.8	68.4	64.4
	思考・判断・表現	65.3	64.2	60.3

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

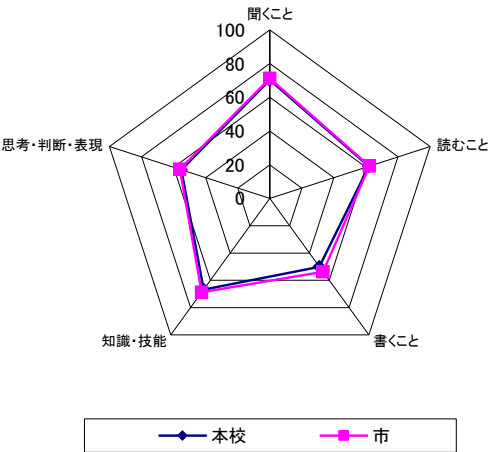
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
エネルギー	○容器から空気をぬいていったときのプザーの音の大きさとテープのようすを推測する問題では、市の平均を3.8%上回っている。 ○磁力線のようすについて推測する問題では、市の平均を5.3%上回っている。 ○テープの長さから、そのテープが記録されたときの台車の平均の速さを求める問題では、市の平均を11%上回っている。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・「磁界の向きを変える方法を説明する」といった記述が苦手な生徒が多いので、記述問題に慣れるように繰り返し、授業の中で確認していきたい。
粒子	○液体を加熱するとき、沸騰石を入れておく理由を説明する問題では、市の平均を5.5%上回っている。 ○塩化銅水溶液の電気分解によって発生する気体の性質を問う問題では、市の平均を5.6%上回っている。 ●最も多くエタノールがふくまれている液体を答える問題では、市の平均を2.7%下回っている。 ●液体を加熱して沸騰させ、出てくる気体を冷やして再び液体にして集めることを、「蒸留」と答える問題では、市の平均を2.9%下回っている。	・基本的な知識は身につけているが、実験の結果から考察していくことが苦手な生徒が多いので、結果を丁寧に整理しながら、考察を導きだすようにしていきたい。
生命	○エンドウの花のつくりを問う問題では、市の平均を0.8%上回っている。 ●ルーペの使い方に関する問題では、市の平均を8.9%下回っている。 ●唾液にふくまれているデンプンを分解する酵素が「アミラーゼ」という問題では市の平均を5.7%下回っている。	・実験で使用する道具の使い方を確認したい。 ・器官によってふくまれている消化酵素が異なるので、器官と消化酵素が一致するように確認したい。また、消化酵素がどの栄養素にはたらくのか、繰り返し確認していきたい。
地球	○火山の形からマグマの特徴や噴火のようすを推測する問題では、市の平均を3.3%上回っている。 ●花こう岩にはなく安山岩にだけ見られる特徴を問う問題では、市の平均を3.8%下回っている。	・火成岩にふくまれている鉱物の割合によって6種類に分類されることを確認し、色・ねばりけに注目して違いを理解させたい。

宇都宮市立清原中学校 第3学年【英語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	聞くこと	70.3	71.2	65.4
	読むこと	61.8	62.1	56.9
	書くこと	50.1	53.8	42.5
観点別	知識・技能	66.8	68.8	64.7
	思考・判断・表現	55.2	56.1	45.8

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	○英文を聞き、その内容を理解しているかを問う問題では、4問中2問が市の正答率を上回っている。 ○対話を聞き、対話の概要を捉えて適切に応答しているものを選ぶ問題では、3問全てで市の正答率を上回っている。 ●英文を聞き、その要点を捉えて自分の考えを英文で答える問題では、市の正答率を1.2%下回っている。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・英問英答の正答率を向上させるため、授業で教員の英語を聞いたり、友人と英語でコミュニケーションをとったりする機会を増やす必要がある。
読むこと	○対話文を読み、文構造や文法事項を理解しているかを問う問題(want+人+to不定詞を用いた文)では、市の正答率を3.8%上回っている。 ○英文を読み、要点を捉えて適切なものを選ぶ問題では、市の正答率を4.6%上回っている。 ●対話文の情報を読み取り、その内容を理解しているかを問う問題では、市の正答率を3.5%下回っている。	・英文を読む機会を多く取り入れるため、教科書を音読したり、指示語が意味する内容を考えたりする授業を展開していく。
書くこと	○文の語順を理解し、正確に書いているか(形容詞的用法の不定詞)を問う問題では、市の正答率を3.7%上回っている。 ●スマートフォンの使用に対する考えや意見を相手に伝えるように書く問題では、市の正答率を3.7%下回っている。	・英文を書くには、まずは語彙力が必要となる。新出単語を中心に、定期的に単語テストを実施することで、語彙力の向上を図る。

宇都宮市立清原中学校

学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・目標にむかってあきらめずに、粘り強く学びに向かう生徒の育成	・「自主学習ノート」運用による家庭学習の定着と家庭での学習課題の適切な提示 ・新入生への「きよはら学習ガイド」の配付	・「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができる」の項目では、3学年の肯定割合は市の平均を上回り、1・2学年の肯定割合は市の平均を下回った。
・個に応じた分かりやすい授業の展開と個別に最適な学びを推進するためのICT機器の活用	・1人1台端末でのAIドリルの活用 ・ICT支援員との協働による学習指導の推進	・「インターネットやパソコンを利用して、学習に関する情報を得ている」「パソコンを使って、相手に分かりやすく自分の考えや調べたことを伝えることができる」の項目では、3学年とも肯定割合が市の平均を下回った。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

・「宿題はきちんとやり、期限までに提出している」の肯定割合が市の平均を上回るように、家庭学習の習慣化を目的とした「自主学習ノート」の取組を更に継続していきたい。次年度は更に、家庭での学習課題の適切な提示を行い、その日に学んだ学習内容は、その日のうちに復習して定着が図れるように、自主学習の質を向上させていきたい。

・1人1台端末を操作する技能レベルは年々向上してきていることもあり、今後はそれを土台にして「思考力、判断力、表現力等」を育みながら、自らの学びを深めることができる生徒の育成を目指していきたい。